

早稲田大学 教育学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	全問マーク式
試験時間	90分(現代文2問、古文・漢文1問)
難易度	昨年比、易化

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「人間の複数性」について。

出典:五十嵐沙千子『この明るい場所』。

《本文字数:約 3800 字＝昨年より約 100 字増加。設問数:8＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問一	標準	【傍線部説明】前段落の内容から、「単一的『人間』」が人間の「複数性」と対比された概念であることを捉える。ニの「抽象的な理念」は傍線部の「規範性」の適切な言い換えである。
問二	やや易	【傍線部説明】同段落と続く三段落の内容から容易に判断できる。消去法も有効だろう。
問三	やや易	【脱落文挿入】[IV]の直後との整合性から容易に判断できる。
問四	標準	【空欄補充】同一者しかいなければ、「(自分を)わかってもらわなければならない 異他的なもの」すなわち空欄Xが存在しない、という内容である。
問五	やや易	【空欄補充】直前二行の内容から容易に判断できる。
問六	やや難	【傍線部理解】同段落と続く二段落の内容から判断する。人間のみが、話すことと行うことで自他の区別を明らかにできる、ということである。ニは、「意見の…確認しあうことでしか」という限定が不適切である。
問七	標準	【傍線部理解】前後三段落の内容から判断する。消去法も有効だろう。
問八	標準	【趣旨理解】文章全体の理解が問われている。消去法も有効だろう。

(二) 評論文。「非識字者差別をうみだす社会」について。

出典:かどやひでのり『識字の社会言語学』。

《本文字数:約 3000 字＝昨年より約 1100 字減少。設問数:9＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問九	やや易	【漢字】昨年までの書き取りから選択式に変わった。確実に正解したい。
問十	標準	【理由説明】直前の一文の言い換えである。「意識されなくなり」がその理由である。
問十一	やや易	【傍線部説明】直後の一文で言い換えられている。
問十二	標準	【傍線部理解】四つの事例の直後の段落内容から判断する。ハがやや紛らわしいが、「文字…本来もっている価値」が不適切である。
問十三	やや易	【空欄補充】筆者の主張を捉える。Cが決め手となる。
問十四	やや易	【理由説明】傍線部4を含む文と直後の一文から容易に判断できる。
問十五	やや易	【傍線部説明】同段落の傍線部5以降で言い換えられている。
問十六	やや難	【理由説明】前段落と同段落の内容から判断する。特に同段落の最後の一文が重要であり、ニの前半でそれが言い換えられている。
問十七	標準	【傍線部説明】「二義的」とは「それほど重要ではない」という意味。「重要な問題」は、同段落の傍線部7以降で述べられている。

(三) 古文。出典：無住『沙石集』。

《本文字数：約 1900 字＝昨年より約 900 字増加。設問数：11＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十八	標準	【傍線部理解】重要古語「忍ぶ」に着目して選択肢をしぼる。学僧の態度を我慢しているのは修行者たちである。
問十九	やや易	【空欄補充】最愛の子が死んだのに兄が見舞いに来ないことを妹はどう思うか。
問二十	やや易	【文法】格助詞「の」の意味が問われている。ニ以外は主格である。
問二十一	標準	【空欄補充】四字熟語の意味を知っていれば、前後の文脈から容易に判断できる。「愛別離苦」(＝愛する者と死別する苦しみ)、「老少不定」(＝人の死期は老若に関係なく定まっていない)。
問二十二	易	【文法】動詞の活用の種類。基本である。
問二十三	やや易	【傍線部理解】傍線部が直前の問いかけに対する返答であること、及び、前後とのつながりから、「や」が反語であることを見抜く。
問二十四	標準	【空欄補充】前の「されば…似たり」から判断する。
問二十五	やや易	【空欄補充】後の「知る事…かたきなり」から判断する。
問二十六	標準	【空欄補充】第四段落の内容から判断する。
問二十七	標準	【内容合致】ホは第四・五段落の内容に合致する。
問二十八	易	【文学史】『日本霊異記』は日本最古の仏教説話集。基本中の基本である。

(三) 漢文。出典：司馬遷『史記』巻四「周本紀」。

《本文字数：211 字＝昨年より 79 字増加。設問数：6＝昨年より 1 問増加。》

小問	難易度	コメント
問二十九	標準	【本文理解】蘇厲による戦況分析は、1～3行目に書かれている。
問三十	標準	【傍線部理解】直前に「養由基怒」とある。
問三十一	やや易	【返り点】設問文に意味が示されているので容易だろう。
問三十二	標準	【傍線部理解】本文末から2行目の「一挙…尽棄」に着目する。
問三十三	標準	【傍線部理解】後ろの「今又…攻梁」と2行目の「今又…攻梁」との対応をおさえる。
問三十四	やや難	【傍線部理解】蘇厲が白起を梁に侵攻させたくないと考えていることをつかむ。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は、昨年より易化した。高得点勝負になるだろう。

大問一は、「人間の複数性」についての評論文。昨年より易化した。ハンナ・アーレントは難関大の現代文でよく言及される思想家である。現代文の学習をしっかりとってきた受験生にとってはなじみのある内容だっただろう。

大問二は、「非識字者差別をうみだす社会」についての評論文。昨年よりやや易化した。差別についての評論文も難関大では散見される。基本・標準レベルの設問は得点しておきたい。

大問三の古文は、『沙石集』。昨年よりやや易化した。本文は昨年より約 900 字増加し、約 1900 字の長文だが、昨年の『建礼門院右京大夫集』と比べると、取り組みやすかっただろう。

大問三の漢文は、『史記』。昨年よりやや難化した。本学部を受験する場合は、漢文の学習もしっかりしておきたい。